役にたつ
山梨県の広報誌

FUREAI
〔ふれあい〕

2025 | WINTER

Vol.83

富士山の恵みを全県へ！

新提案！

巻頭特集

富士トラム

［トピックス］P2Gの「量産工場」建設へ

連載 山梨懸人 不登校問題の解消を目指す

YAMANASHI

［巻頭特集］

新提案！富士トラム

瀬戸際の富士山を救い、未来のやまなしをデザインする

富士山麓とスバルライン五合目を結ぶ
富士山登山鉄道構想について、
長崎幸太郎知事は新たに、
「富士トラム」（仮称）を提案しました。
この構想は、富士山の来訪者コントロールを実現し、
あるべき富士山の姿を
後世に引き継ぐことを目指します。

富士トラムは「未来のやまなし」を
デザインするアイデアです。
富士トラムとはどんな交通手段なのか。
なぜ、従来の鉄レール案から変わったのか。
県民の皆さんに説明します。

NEW Mobility

リニア駅へ

富士トラム（仮称）とは

住民の皆さんの懸念に対応した2つの大きな特徴を備えます。

- 鉄輪ではなくゴムタイヤを使用
  既存道路を使った延伸が可能で、静かに走行します。
- レールを用いない誘導方式の採用
  鉄レールを敷設しないため工費を大幅削減。
  軌道法の適用により来訪者コントロールが可能です。

富士山とリニアが直結！

ミライのやまなしの日常風景

甲府市内の自宅を出て、近くのトラム駅まで歩く。走ってきたトラムに乗り込み、向かうのはリニア駅。25分も乗れば都内に着けるので、大学には自宅から通っている。

乗り込もうとしたリニアから、団体客が降りてきた。

「富士山に登るには東京から新宿経由で大回りしたものだけど、あっという間に着いたなあ」。関西か名古屋方面からの観光客のようだ。名古屋から45分とアクセスが良くなったので、西から来る人たちが以前より増えているらしい。

娘を大学に送り出した母は「便利だねえ。私たちの世代は、東京で高い家賃払って下宿していたのに…」とつぶやいた。

先日、隣の古い空き家に若いファミリーが引っ越してきた。「レトロ建築」というらしく、内装はリフォームして快適そうに暮らしている。小さなお子さんも以前より広い家に喜んで、にぎやかな声がよく聞こえてくる。パパは、東京から本社移転してきた会社に勤めているらしい。

「そういえば、県の偉い人が最近言ってる〝副都心構想〟ってこういう暮らしのことなのかな」――

こんな未来図を実現するのが、富士トラムです。

富士山の来訪者コントロールを目的とする「富士山登山鉄道構想」ですが、富士トラムが実現すれば、皆さんの生活の質をグッと上げる可能性を秘めています。

今回提案する「富士トラム」のカギは、富士スバルライン五合目と富士山麓をつなぐトラムを、近い将来開業予定のリニア中央新幹線・山梨県駅（仮称＝甲府市大津町、以下「リニア駅」）とも結ぶアイデアにあります。

実現すれば、**リニア駅は、東京や名古屋方面から来る人にとって「富士山の玄関」になり、県民にとっては「大都市圏への入口」になります。**

グランド・ビジョン

県内に富士トラム網を張り巡らせる

リニア駅とスバルライン五合目。これら2地点をなぜ直結することができるのでしょうか。それは、富士トラムに導入する車両が、ゴムタイヤで走るからです。鉄レールを新たに敷設する必要がなく、**既存の一般道を走ることができるので延伸が容易です。**

県は、将来的に富士トラムを県内各地に延伸することも視野に入れています。実現したときの「グランド・ビジョン」も描きました。リニア・中央本線・身延線といった鉄道に加え、中央道・中部横断道・新山梨環状道路などの主要道路のはざまに「富士トラム網」を張り巡らせていく計画です。

リニア開業というチャンスを県民の暮らし向上や、地域経済の活性化にダイレクトに結び付けていくこと。これこそが、「富士トラム」を核としたグランド・ビジョンの最も重要なポイントです。

名古屋圏や関西圏から富士山や県内へのアクセスが良くなるので、リニア駅の利用者は格段に増えるはずです。それにより、**「リニア駅の停車本数を増やす効果」**が期待できます。

これまで新幹線駅が設置されたものの、その駅に停車する列車が少なく、単なる〝通過駅〟となってしまって地域の活性化に生かされないケースがありました。

山梨県でそのような状態を生み出してはいけません。

リニアと富士山がつながることで利便性が向上し、リニア駅の乗降客数が増えれば、単なる〝通過駅〟にはならず、停車本数の増加が見込めます。

そして、トラムが県内各地とリニア駅を結ぶことで、リニア駅周辺の開発が促され、JR甲府駅一帯をはじめ各地の観光・交流や産業振興もさらに進むことが期待できます。富士山の恵みを全県へ行き渡らせることができるのです。

冒頭に描いた「やまなしの未来予想図」のように、県民の皆さんは、家の近くにできたトラム駅から乗ればリニア駅に行けます。そして、リニアに25分乗れば東京に、45分で名古屋に着きます。県民の皆さんにとって、**リニアが普段使いできる手軽な交通手段になります。**

リニアによる東京へのルートができることは県民の普段の暮らしやビジネスにも影響します。東京が通勤・通学圏内になるからです。

東京に転勤になっても引っ越しをせずに済みます。東京に本社を置く会社が山梨へ移転してくるケースも出てくるでしょうし、大都市圏で働いている人たちが、暮らしや子育て環境が整っている山梨へ移り住む動きも加速することが期待できます。

こうした変化が、人口減少対策にも好影響を与えるはずです。

これまで県内を訪れる観光客は、富士山観光がメインだったかもしれません。しかし、県内には他に幾つもの観光名所があります。リニアを経由して山梨県内のトラム周遊が実現することで、観光客は、富士山の行き帰りに石和温泉に寄ったり、笛吹川フルーツ公園で旬の果物を楽しんだりすることも簡単にできるようになります。

このように、県内の観光地が活性化していくことは、地域経済にも好影響を与えると考えています。

県は、富士北麓地域で「富士五湖自然首都圏構想」を進めています。最新のアートや、水素などの先端技術を生かして「世界に類を見ない先進的地域」を創る構想です。トラムでつながった富士北麓地域は、世界中の人々がリニア駅を経由して集まり、交流を深める拠点になります。

リニア駅を起点に、県内各地をつなぐ富士トラムが「新しい山梨県のカタチ」を創り上げていくことにつながるでしょう。

マレーシアで試験走行中の車両

富士トラムの特徴はここ！
なぜ来訪者コントロールにつながる？

富士トラムを一言で表現すると、「電車の形をしたニューモビリティ」です。ゴムタイヤなので、レールを走る鉄道に比べて走行音が小さく、快適で上質な旅を満喫できます。まさに**電車とバスのいいとこ取り**なのです。

富士山麓とスバルライン五合目を結ぶトラムは、車両に搭載したセンサーが道路上の白線や道路に埋め込んだ磁気マーカーなどを読み取って走行します。白線はスバルライン上に線を引くだけで、磁気マーカーの場合も間隔を空けてマーカーを埋設する工事のみなので、環境への影響は最小限です。

トラムの動力源は、山梨県でつくっているグリーン水素の活用を想定しています。

グリーン水素とは、再生可能エネルギーでつくられた水素のことで、製造過程で二酸化炭素を排出しないため、「脱炭素社会」の実現に貢献します。

県企業局がリニア駅近くの米倉山（甲府市）で運営する施設は水素・燃料電池に関する世界最高水準の研究開発拠点で、企業や研究機関が集結しています。

富士トラムの動力源として、県産のグリーン水素が使われることで、世界中に「水素先進地域」という実績と名声が広まり、山梨ブランドの向上にも寄与します。

そして、富士トラムの導入が、富士山登山鉄道構想がそもそも目

指していた「富士山をあるべき姿にして後世に引き継ぐ」こととどうつながることになるのかをご説明します。

「軌道」になるからバスも規制できます

現在の富士スバルラインは、マイカー規制以上に車両の進入をコントロールすることができませんでした。

富士トラムの導入にあたっては、走行に必要な白線や磁気マーカーをスバルラインに敷設します。この白線や磁気マーカーが「軌道」の役割を果たします。

路面電車や各地で導入が進む新交通システムなど、軌道上を走る乗り物は、「軌道法」という法律が適用されます。**県は、富士トラムに軌道法を適用すればスバルラインへの一般車両の進入を規制できると考えています。**規制が可能になれば、富士山への来訪者数をコントロールすることができるようになります。富士トラムの実現は、環境負荷にあえぐ「瀬戸際の富士山」を救うことができるのです。

コストを大幅削減

従来の登山鉄道案との違いは、大きく二つあります。

まず、コストです。**富士トラムの整備コストは、登山鉄道案（約1400億円）より大幅に少なくなるのではないかと見込んでいます。**鉄のレールを敷く必要がないことが大きなコスト削減の要因です。運行を始めて以降のメンテナンス費用も、登山鉄道案より大幅に削減できると考えています。コストを減らせるので、延伸のための費用に充てることが可能になります。

スバルライン上にレールを敷設する登山鉄道案は工期が長く、富士山観光を数年止めなければいけません。

富士トラムの場合、白線や磁気マーカーを敷設する簡単な工事で、環境への影響が少ない上、工事期間も短くて済むので富士山観光を止める必要がありません。これが第二の違いです。

富士山登山鉄道構想について詳しく知りたい方はこちら

富士トラムの詳細はこちら

従来案からの方針転換 県民の集合知から生まれた

富士トラムという新提案が生まれたのは、県民の皆さんとの密度の濃い議論を重ねてきたからにほかなりません。

県は2021年、県の有識者会議でベストとされた登山鉄道案を皆さんに提示しました。提案当初から「鉄道ありきではない」という考えを説明した上で、「富士山を救うための議論を始めませんか」と呼びかけました。

呼びかけと同時に、県は、23年11月から富士北麓の6市町村で、知事も出席して住民説明会を開催しました。住民の皆さんからは多くの疑問や貴重なアイデアをいただきました。この説明会を受けて、県は登山鉄道案だけでなく、他の交通システムの検討も行ってきました。

新たな交通システムの検討と並行し、24年6月から7月には、県庁の担当職員が北麓地域の皆さんと意見交換する会を計14回開きました。

11月13日には、長崎知事が約2時間にわたり、富士山登山鉄道構想に反対する3団体の代表者から詳細なお話をうかがいました。団体の代表は「富士山への来訪者コントロールは必要だ」という一方で、「鉄のレールを使う交通手段は工事に伴う自然破壊が心配だ」という意見は共通していました。

皆さんの意見やニーズを集約した結果、富士トラムが従来の案に代わる「最適解」になり得るとの考えに至りました。長崎知事は、鉄のレールではない「富士トラム」に方針転換することを決断し、それを発表する会見でこう述べました。

「富士山の新交通システムは山梨県にとって基盤となるシステムなので、できるだけ多くの人に祝福とまで言えなくても、賛同や理解を得ることが望ましいと考え、政治的判断をしました」

今回の富士トラム案もあくまで一つの提案です。さまざまな考えを持つ皆さんと意見を交わし、多くの方が納得できる交通システムにする必要があります。現在、住民の皆さんへの説明も順次実施しています。

12月定例議会に技術的課題を調査する予算を提出しました。その調査結果を踏まえ、県民の皆さんと議論を進めていきます。

将来予定されるリニア新幹線の開業は、国土の構造に転換をもたらし、産業や住宅の立地選択にも大きな影響を与えます。日本国内における山梨県の存在感を引き上げていくためにも、リニア開業に向けた準備はスピードが必要です。

いち早く、課題解決策を実行していかなければなりません。

これまでに上げられた懸念の声と今後の方向性

レール敷設
設置費用がかかるし、工期も長いメンテナンス費用も高いのでは？

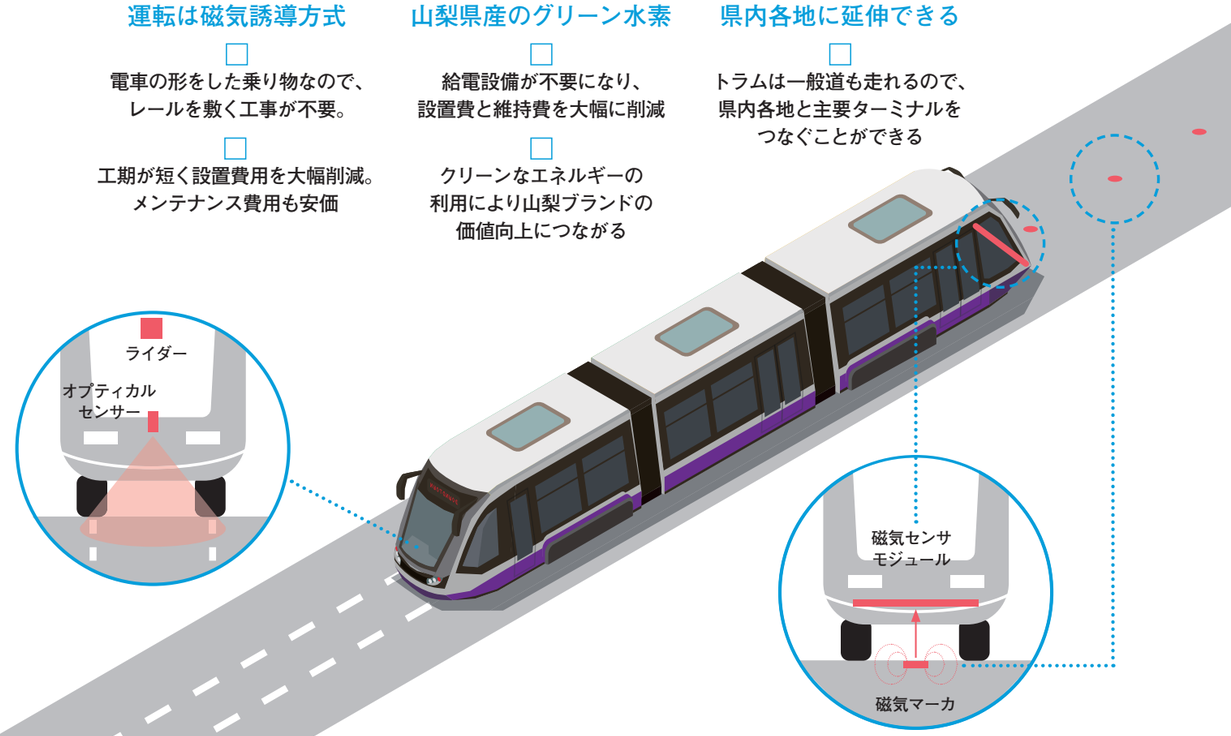
ワイヤレス給電
積雪や落葉の影響受けない方式は現状であるの？

富士トラムにすると…

ゴムタイヤで走行 運転は磁気誘導方式
□ 電車の形をした乗り物なので、レールを敷く工事が不要。
□ 工期が短く設置費用を大幅削減。メンテナンス費用も安価

動力源は 山梨県産のグリーン水素
□ 給電設備が不要になり、設置費と維持費を大幅に削減
□ クリーンなエネルギーの利用により山梨ブランドの価値向上につながる

ゴムタイヤなので 県内各地に延伸できる
□ トラムは一般道も走れるので、県内各地と主要ターミナルをつなぐことができる



［問い合わせ先］富士山保全・観光エコシステム推進グループ TEL 055-223-1330 FAX 055-223-1438

特集2

「水素先進地やまなし」が大きく前進！

P2Gの量産工場が都留市にやってくる

世界中で脱炭素の動きが進む中、水素エネルギーへの関心が高まっています。燃料として使っても二酸化炭素を発生せず、地球温暖化の元凶ともいわれる化石燃料からの脱却につながるからです。

山梨県は、カーボンニュートラルのトップランナーとして、日本をリードし続けてきました。そして2024年、水素をつくる装置の量産工場が県内に新たに建設されることが発表されました。

充実した研究環境に「量産」というパーツが加わり、山梨県は、水素先進地としてさらに前進します。

カナデビア新工場、28年度にも操業へ

国内で水素製造装置を手がけるカナデビア（旧日立造船、本社・大阪市）が、都留市に新しい工場をつくることを発表しました。カナデビアは機械・工場設備のメーカーで、約80億円を投じて新工場を建設し、28年度中の操業を目指すとしています。

新しい工場でつくられるのは、水を電気分解して水素を製造する水電解装置の中核機器で、「水電解スタック」と呼ばれる機器です。カナデビアは都留市の新工場を〝国内マザー工場〟と位置づけ、水電解スタックを量産し、水素製造拠点を国内外に順次展開していく考えです。

P2Gシステムの普及を後押し

山梨県はこれまで、水素を製造して実際に工場などで使えるようにするため、全国をリードして研究開発を進めてきました。県が開発した水素製造装置「P2Gシステム」は、サントリー白州工場（北杜市）などで導入の準備が始まっています（P11に詳細）。

産業界の関心も高く、水素の製造・研究開発拠点でもある米倉山（甲府市）の施設には、NTTドコモや東レなど多くの企業が入居し、国内企業や外国からの視察も絶えません。

しかし、水素エネルギーは、なかなか普及が進んでいません。従来の燃料より値段が高いことが大きな原因です。

量産によって水素をつくる装置の価格が下がれば、水素製造コストの削減につながります。**カナデビアの新工場は、日本の水素社会実現をけん引するシンボルになるのです。**

県が開発した水素製造装置「P2Gシステム」にも、同社の機器（スタック）が使われています。スタックが安くつくれるようになれば、P2Gシステム自体のコストも安くなり、山梨発の技術が全国に普及していく可能性が高まります。

P2Gシステムが普及すればするほど、水素エネルギーのコストが下がるという好循環が生まれます。この結果、「暮らしの中で水素が使われる」社会が現実のものになるわけです。

やまなしP2Gシステムが世界に広まり、山梨はグリーン水素の代名詞となります。

県内経済に好影響及ぼす〝水素効果〟

水素先進地であることは、県内経済にも好影響が期待できます。

水素に関連した企業がいま、山梨に集まり始めています。企業が県内に拠点を置けば、新しい〝働く場〟ができます。山梨にUターンして働く人が増えるでしょう。県内大学生にとっては魅力的な〝就職先〟になります。

県内企業との新たな取引も始まるでしょう。今は水素と関係ない企業が水素関連分野へ参入する機運が高まり、安定的な収益アップ効果も出てくる可能性があります。

カナデビアの工場誘致にあたり、長崎幸太郎知事は23年10月、カナデビア東京本社を訪ね、立地条件の良さなどをアピールしました。さらに、24年2月、堀内富久・都留市長とともに候補地を案内するなどトップセールスを重ねた結果、都留市への立地が決まりました。

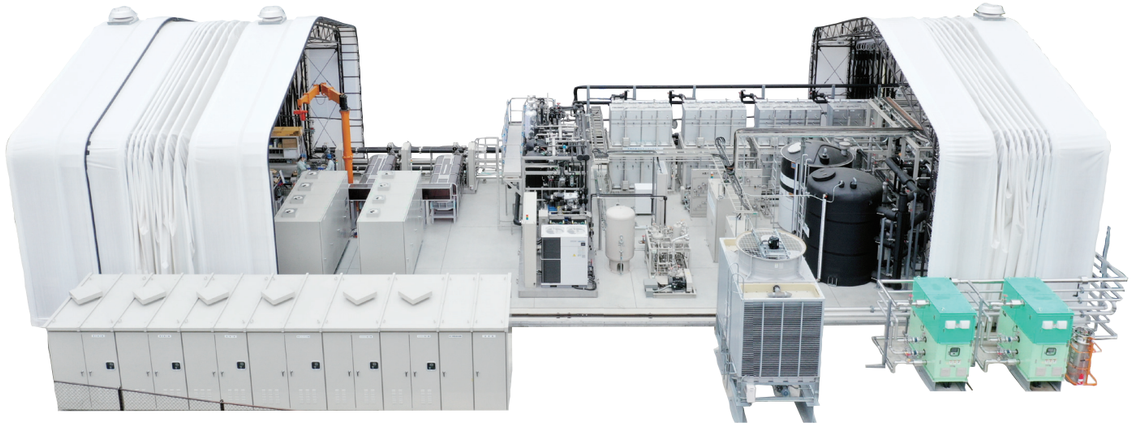
長崎知事はカナデビア新工場について、「**研究環境が整った本県に〝量産〟という新たなピースが加わります。それによって、〝実証〟が〝実装〟へと移行するスピードが加速していきます**」と述べ、全面的な支援を表明しました。

[問い合わせ先]（P2G）新エネルギーシステム推進課　TEL 055-234-5268　FAX 055-267-5318

[問い合わせ先]（企業立地）成長産業推進課　TEL 055-223-1565　FAX 055-223-1569

水素でつくったあなたの暮らしが変わる

山梨県がつくった水素は、産業界から注目され、多くの企業が実際に使い始めようとしています。海外からも「やまなしの水素」に注目が集まっています。需要が高まって使う量が増えれば、水素エネルギーの製造コストは安くなっていきます。「水素を使う暮らしが当たり前」の時代が、まず、山梨県から始まろうとしています。



米倉山に設置されている P2G システム。大工場内に新設する大型のタイプと、それほど大きくない工場に後付けできる小規模パッケージもある

1

TOPICS

水素を使った暮らしは遠い先の〝夢物語〟ではない?!

企業が工場などで水素を使う例は着実に増えつつあります。

では、私たちの暮らしはどう変わるのでしょうか――。

県は2025年度から、農業用ハウスで使う「水素加温機」を開発するため、実証実験を始める予定です。ＪＡや農家が太陽光で発電した電力を使って、米倉山の電力貯蔵技術研究サイトで「グリーン水素」※を生産。この水素を燃料にして農業用ハウスを温めるというチャレンジです。

農業用ハウスの加温機は重油を燃料にするのが一般的ですが、燃料をグリーン水素に置き換えることで、コスト削減を実現するための仕組みづくりを進めていきます。

県は他にも、集荷などに使う軽トラックや農作業に使う農機の電動化の検証もしています。

地球環境にとって良い商品を積極的に選ぶ「エシカル消費」が広がる中、カーボンフリーは〝選ばれる商品〟の有力な条件になります。農家にとっては、ブドウやモモなどの作物を「カーボンフリー・フルーツ」として付加価値を高めて売ることで、収益増につながります。

また、近い将来には、水素バスや水素トラックが街を走るのは日常風景になっていることでしょう。

2030年代には、家庭でも水素を使うようになる可能性があります。

いま検討されているのは、各家庭につながっている都市ガスの配管に水素を混ぜる方法です。徐々に水素の割合を増やして、いずれは水素が家のエネルギー源の一つになっていくというアイデアです。こうすれば、新たに水素管を地下に埋設するというインフラ工事が要りません。

水素を使った暮らしは、そう遠い先の夢物語ではないのかもしれません。

※**グリーン水素**　再生可能エネルギーを使い、製造過程で CO_2 を一切出さずにつくられた水素のこと。究極のクリーンエネルギーといわれています。

県産のグリーン水素先進拠点となっている米倉山の施設

[問い合わせ先]（カーボンフリー農業）農業技術課　TEL 055-223-1616 FAX 055-223-1622

TOPICS

県内でも、海外でも山梨発のＰ２Ｇシステム

「サントリー天然水 南アルプス白州工場・サントリー白州蒸溜所」（北杜市）で2024年２月、水素製造工場の建設が始まりました。工場内には県が開発した「Ｐ２Ｇシステム」が使われています。

25年度の稼働を目指し、国内で最大規模となる年2200トンの水素を製造する予定です。年間の CO_2 削減量は１万6000トンを見込んでいます。

工場内には総延長約２キロに及ぶ水素パイプラインが張り巡らされ、天然水の殺菌などに使われます。

Ｐ２Ｇシステムは小規模にすることもできます。

小規模にすることで、既存の工場に設置し、従来は化石燃料を使っていた設備を水素に切り替えることができるのです。これまでのところ、大成ユーレック（大成建設のグループ会社）の川越工場がコンクリート養生工程に、住友ゴム工業の白河工場がタイヤ製造の工程で、小規模版「Ｐ２Ｇシステム」を導入することが決まっています。

また、化粧品メーカーのコーセーが南アルプス市に新工場を建設することが決まりました。この新工場では、スキンケア製品の製造に使うボイラーの燃料として、米倉山でつくった「グリーン水素」が使われます。すでに着工されており、26年上期中に稼働を始める予定です。

海外への展開も始まりました。

インドでは、自動車メーカー「スズキ」の子会社でＰ２Ｇシステムの導入検討が進んでいます。工場内で使う再生可能エネルギーの余った電気でＰ２Ｇシステムによって水素をつくる計画です。

インドネシアでは、地熱発電で余った電力をＰ２Ｇシステムで水素にする試みが始まっています。

海外でＰ２Ｇシステムを展開することで、将来的には水素エネルギーを輸入することにもつなげたいと考えています。山梨県が開発した水素製造装置でできた大量の水素を輸入して、日本全体の脱炭素化を後押しすることも実現できるかもしれません。

2

3

TOPICS

米カリフォルニア州も注目！知事に国際会議への招待状が

長崎知事は2024年11月、米国カリフォルニア州を訪ねました。県が富士北麓地域で進める「富士五湖自然首都圏フォーラム」の一行で視察しました。

フォーラムは、水素の活用を重要な柱の一つにしています。水素を活用した新技術やビジネスにチャレンジしたい人が集まって交流し、新たなビジネスモデルをつくり上げてほしいという狙いです。

長崎知事は今回のカリフォルニア訪問で、クリーンな水素の製造や利活用に取り組む「Renewables 100」※1世界最大のグリーン水素製造施設を持つ企業「SGH2」※2の代表と相次いで面談し、山梨県の水素への取り組みを説明しました。

その結果、この２つの団体・企業と「富士五湖自然首都圏フォーラム構想」とが相互協力していくための基本合意の締結に至りました。

また、帰国後、25年２月にカリフォルニア州で開かれる気候変動対策の国際会議で、長崎知事を基調講演のスピーカーとして招待するという書状が届きました。

カリフォルニア州は州単独でもG8諸国と肩を並べる州の総生産があります。こうした経済先進地域からも、山梨県の水素社会の実現に向けた取り組みは注目されています。

もっと知りたい やまなし in depth

もっと知りたい やまなし in depth

※1 **Renewables 100**：アメリカで水素エネルギーの普及を推進する官民合同組織「ARCHES」（再生可能クリーン水素エネルギーシステム連合）の中核組織。2007年設立。　※2 **SGH2**：カリフォルニア州ランカスター市と連携し、年3,800トンのグリーン水素を製造している。

[問い合わせ先] 富士五湖自然首都圏推進グループ　TEL 055-223-1387 FAX 055-223-1320

［特集3］

TRY!YAMANASHI!が
次のStageへ

根付き始めた新事業チャレンジ

リニアが開業すれば東京・品川から約25分の距離！
山梨が新たなビジネス拠点になるチャンスがやってくる――。
「開業後」を見据えて県は都内のスタートアップ（新興企業）などを集め、
新技術の実証実験を行う"テストベッドの聖地"を目指しています。
2021年から始まった「TRY!YAMANASHI!実証実験サポート事業」では、
24年度までに43件のプロジェクトをオール山梨で支援してきました。

リニアやまなしビジョン　2020年3月策定

TRY!YAMANASHI!は、
さまざまな社会課題の解決につながる
「テストベッド*」の提供を
突破口にすることを目指した
「リニアやまなしビジョン」が根本にあります。
山梨県のテストベッドとしての優位性は、
主に次のような点です。

- ☑ 適度な規模感、多彩な実証フィールド
- ☑ リニアで東京から25分という近接性
- ☑ 産官学金が連携した
  オール山梨の伴走支援体制

*実際の運用環境に近い状態で先端技術の実証実験を行う場

小菅村で物資を運ぶドローン

拠点となるドローンデポから、小菅村内の11カ所にあるドローンスタンドまでの飛行経路（写真に描かれた実線）は、安全に配慮してあらかじめ高度などが定められている

PROJECT 1

小菅村でドローンが活躍！

2021年10月、「TRY！YAMANASHI！実証実験サポート事業」第1期採択企業の一つである株式会社エアロネクスト（東京都渋谷区）が小菅村でドローン配送の実証実験を開始しました。当時は珍しそうに空飛ぶ物体を見上げていた村民たちでしたが、総面積の95％を森林が占める村では、いまやドローンが配送手段として定着し、生活になくてはならない存在になっています。

エアロネクストの子会社で、ドローン配送事業を運営する株式会社NEXT DELIVERY（ネクスト デリバリー、小菅村）企画部部長代理の近藤建斗さんは「いきなりドローンと言われてもイメージが湧きづらいですよね。週末に説明会を開催し、配送を無料にするなど、まずは住民の方たちに利用していただくことで理解を深めていきました」と話します。実験期間の半年間で300回のドローン配送が行われました。スマートフォンアプリや電話で簡単に注文できるため、ビールやアイスなどの食料品を中心に、一瞬で配送予約がいっぱいになることもあったそうです。定着したサービスは、有料フェーズに移行。現在は1回の配送料が陸送も含めて300～500円となっていて、子どもからお年寄りまで継続的に利用されています。

drone delivery

被災地にいち早く物資を届ける

2024年8月28日に県はNEXT DELIVERY、セイノーラストワンマイル株式会社*（東京都中央区）、富岳通運株式会社（甲府市）の3社と連携協定を締結し、小菅村で確立したドローン配送を県内の過疎地や孤立集落に広めようとしています。いまはトラックで輸送している荷物をドローン配送に置き換える計画です。

平時から「ドローン配送網」が確立されていれば、緊急時の輸送にも活用の可能性が開けます。

24年1月の能登半島地震の際、エアロネクストは孤立集落や避難所へドローンによる医薬品などの物資輸送を国内で初めて実施しました。ドローンならば、トラックやヘリコプターが行くことができない場所にも飛んでいけます。普段は身近な買い物の手段として利用しているサービスが災害時には緊急の輸送手段として活躍する地域物流インフラを構築していきます。

*セイノーホールディングス株式会社（岐阜県大垣市）のグループ会社

能登半島地震の際には緊急物資輸送で活躍。
石川県能登町で離陸を前にしたドローン

石川県輪島市など被災地の孤立地区へ医薬品を空輸した

小菅村の実験で始まった事業が全国へ展開しています

株式会社NEXT DELIVERY
企画部部長代理（都留市出身）
近藤建斗さん

もっと知りたい やまなし in depth

TRY!YAMANASHI!

*写真はいずれもNEXT DELIVERY提供

電気と水の自給自足で新たな暮らしを実現

「電気も水もないところで、自給自足の暮らしはできるのか？」

そんな実証実験をしたのは「TRY！YAMANASHI！実証実験サポート事業」の採択企業の1社であるU3イノベーションズ合同会社（東京都港区）です。水や電気を公共インフラに頼らない〝完全オフグリッド〟の住居「オフグリッド・リビングラボ八ヶ岳」を2022年3月1日、北杜市に開所しました。現在は、U3イノベーションズから独立したINNFRA株式会社（甲府市）が施設を運用しています。

計5棟の白いドーム型のインスタントハウスを連結させた居住空間は、常時2～3人が生活できます。太陽光によるソーラーシステムで発電し、生活排水を浄化してシャワーやキッチンなどで循環利用することで、既存インフラの維持が難しくなる過疎地などでも快適に暮らすことができます。

実証実験の成果から独自の水循環システムも開発し、「無印良品の家」に採用されました。移動ができるコンテナ型にすることで、道の駅などの防災拠点に設置しながら、観光コンテンツとしても活用できないか検討が進められています。

北杜市に建てられた「オフグリッド・リビングラボ八ヶ岳」

PROJECT 2

道の駅に設置する水循環システムを使ったコンテナのイメージ

新事業共創プラットフォームについて詳しくはこちらから

実証実験サポート事業について詳しくはこちらから

*写真はいずれもINNFRA提供

News!

あらゆる挑戦を支援する

スタートアップや先端技術といった枠組みにとらわれず、
社会課題を解決しようと頑張る人を応援する
「新事業共創プラットフォーム　TRY!YAMANASHI!」を始動しました。

1 挑戦者と支援者を増やす

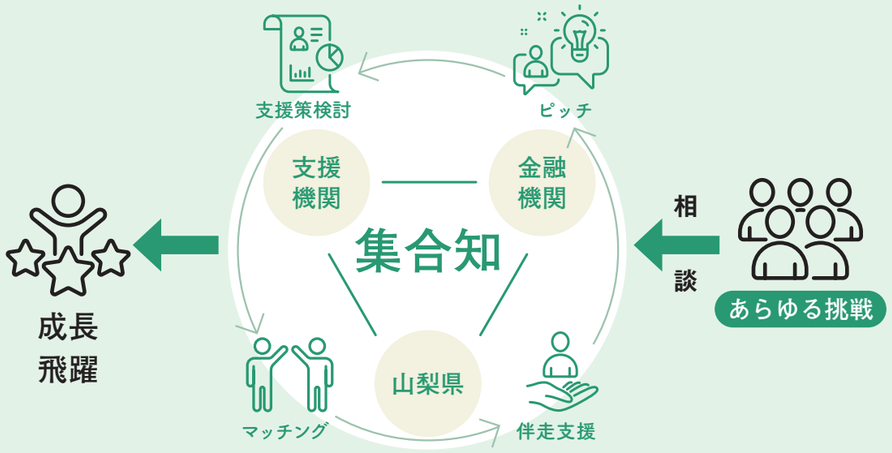
「山梨から社会課題に取り組み、イノベーションを起こしたい！」という人たちが挑戦しやすいように、支援者みんなで一緒に考え、伴走しながら支援します。

2 挑戦者と支援者がつながる

イノベーションを起こしたい人同士がネットワークでつながり、ビジネスの輪を広げます。また、さまざまな支援機関や金融機関が連携することで、組織の枠を超えた支援を提供します。

3 イノベーションエコシステムの確立

多くの挑戦者が県内に集まり、中には成長を遂げ山梨に根付く企業が生まれます。そうした企業が次世代の挑戦者を支援し、次々と価値が生み出される環境をつくります。



新事業共創プラットフォーム

TRY!YAMANASHI

[問い合わせ先] 新事業チャレンジ推進グループ　TEL 055-223-1514　FAX 055-223-1651

YAMANASHI DESIGN CENTER

デザインの力で日本を元気にする。
山梨デザインセンター始動

山梨県は、社会課題の解決や
地域の活性化につながる新たな拠点として、
2024年11月、県立美術館附属「山梨デザインセンター」を
防災新館2階に開設しました。

デザインセンターでは、多摩美術大学美術学部統合デザイン学科の永井一史教授をチーフデザインオフィサー（CDO）にお招きし、3名のデザインディレクターと共に、山梨のあらゆる資源をデザインで結び付け、新しい価値を生み出していきます。

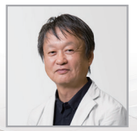
センター設立の目的は、デザインの力を活用して県の政策立案や地域資源の価値向上を図ることです。ここでいう「デザイン」とは単に美しい形にするだけでなく「誰のためにするのか」を徹底的に考え、目的達成に向けて計画を立て、実行に移すプロセス全体のことを指します。

山梨県はデザイン思考を取り入れることで、県民の皆さんが本当に必要としているものは何か、どうすれば使いやすくなるかという視点から、政策やサービスを考えます。

また、地域が持つ資源や産業技術、人材を効果的に組み合わせ、これまで以上に価値を高めていきます。さらに、デザイナーやクリエイターのネットワークづくりの拠点として機能させながら、県民の皆さんも巻き込んで新たな価値が次々と生まれる場を目指します。暮らしをより良くする山梨県の「デザイン」に、どうぞご期待ください。

永井CDOと共に、センターのデザインディレクターに就任するのは次の3名です。それぞれの専門性を生かし、山梨県のデザイン振興を支援していただきます。

山梨県出身で世界的プロダクトデザイナーの
深澤直人さん
（多摩美術大学副学長）



山梨県出身で世界的プロダクトデザイナーの
柴田文江さん
（多摩美術大学教授）

地域の価値創造に実績を持つ
林 千晶さん

防災新館２階にオープンした「山梨デザインセンター」デザイナーやクリエイターのネットワークづくりの拠点となる

デザインセンターの
詳細はこちら

県民一人一人が主役に。
日常を創るみんなのデザイン

山梨県CDO兼デザインセンター長に就任した永井一史さんに、センターが目指すものを伺いました。

山梨県CDO兼
デザインセンター長
永井一史さん
Nagai Kazufumi

多摩美術大学美術学部統合デザイン学科 教授
㈱ HAKUHODO DESIGN 代表取締役社長
2015 年～東京都「東京ブランド」
クリエイティブディレクター
2015 ～ 17 年 グッドデザイン賞審査委員長

もっと読む
やまなし in depth

「デザイン」と聞くと、多くの方はアーティストやクリエイターの仕事を思い浮かべるかもしれません。しかし、私たちが目指すのは、特別な才能を持つ人だけのためのデザインではありません。むしろ、県民の皆さん一人一人が持つ創造性を引き出し、日々の暮らしや仕事に生かせる「デザイン思考」を広めていくことが私たちの使命です。

豊かな自然、歴史ある文化、そして世界に誇る富士山。山梨にはワインや果物、ジュエリーなど、すでに高い評価を得ている数多くの「文化的テロワール」があります。そうした県の価値を深く掘り下げ、デザインの力でより多くの方に山梨の魅力を伝えていくこともデザインの重要な仕事です。

そのために私たちは、まず県庁にデザイン思考を導入することから始めます。職員向けの研修を通じて、県職員の皆さんと共に、県民の真のニーズを深く理解し、それに応える政策を生み出していきます。より効果的で必要な行政サービスへと生まれ変わっていくはずです。

同時に、県内の事業者の方々、そして将来を担う中高生にもデザイン思考を広めていきたいと考えています。特に教育の分野では、単に絵のうまさを競うのではなく、新しい発想や問題解決能力を育む取り組みを行っていきます。将来的には教育委員会や各学校と連携し、デザイン思考を取り入れた授業の実現を目指します。

デザインセンターの役割はこのような活動の拠点であるとともに、県内のデザイナーやクリエイターが集うコミュニティハブになることです。さまざまなイベントやワークショップを通じて、クリエイターだけでなく、あらゆる分野の方々が集い、学び合える場所を創造していきます。

デザイン思考を通じて、私たち一人一人が山梨の未来を創り出す主役となる。暮らしの中で「あ、これ使いやすくなったな」「山梨って魅力的だな」と感じていただける変化を生み出していきたいと考えています。その過程に、ぜひ皆さんも参加してください。一緒に山梨の未来をデザインしていきましょう。

［問い合わせ先］山梨デザインセンター TEL 055-223-1796

未来を懸命に志す県民インタビュー

［連載］

山梨懸人

サッカースタジアムをみんなの居場所に

株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ 井尻真理子

人は、いつもきっかけを探しているのかもしれない。未来に向け懸命に生きる県民を紹介する連載・山梨懸人の3回目の舞台は、サッカースタジアム。そこには、山梨県の不登校問題の解消を目指す女性がいる。なぜ、この場所なのか。彼女の取り組みから、社会問題解決のヒントが見えてくる。

不登校の子たちの居場所づくりに奮闘する井尻さん

ある女性との出会い

物語は、1本の電話から始まる。

「井尻さんのところで、どうか、面倒を見てくれないか」――。

母校・山梨英和中・高校の恩師からだった。Jリーグに所属するチーム・ヴァンフォーレ甲府（以下、ヴァンフォーレ）の営業を担う井尻真理子さん（50）は当時を振り返る。

「突然でした。聞けば、いじめられた過去があり、家に閉じこもっている女性がいる。その人はサッカーが大好きだから、ヴァンフォーレで社会とつながる活動をさせてあげられないかというお話でした」

ヴァンフォーレの事務所には戦歴の数々の思い出の品が飾られていた

そして紹介されたのが、白鳥恵美さんだった。白鳥さんには、早速チラシの封入作業や、試合前の準備などを手伝ってもらった。

すると、日を追うごとに白鳥さんが元気になっていくのが分かった。その頃の気持ちを、白鳥さんはこう話す。

ここがヒント

山梨県は、2024年度から女性管理職の創出を目指す事業「やまなし女性Miraiクエスト」をスタート。同事業には、18人の女性管理職候補者が参加している。数カ月にわたる研修で管理職の役割や、プロジェクト推進のノウハウを学ぶのと連動して、社内プロジェクトを立ち上げて実践する。参加者同士が互いに刺激し合いながら、それぞれが目指す女性管理職像に向けて奔走中。

HISTORY

1974
甲府市生まれ

1997
早稲田大学卒業。その後、出版社、編集プロダクション、広告代理店で勤務

2002
ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブに入社

2015
不登校の子たちへの支援を始める

2024
「やまなし女性Miraiクエスト」で不登校支援の事業化検討を開始。

天皇杯優勝のメダルを手に取る白鳥さん（左）と井尻さん

「ここにいる人は誰も、私の過去について聞かないんです。話題に上るのは『好きな選手は？』などサッカーのことばかり。試合観戦中も、チームが得点したらハイタッチをしてくれた。『気持ち悪い』『触らないで』と避けられた過去がある私にとって、自分の居場所ができたのが、心地よくて」

やがて、白鳥さんは引きこもりを克服した。

「これまで、私は不登校の人と関わったことがありませんでした。白鳥さんをきっかけに、本人やご家族の思い、それを見守る先生や周囲の環境などを知ったんです」（井尻さん）

その後も、ヴァンフォーレを訪れたことで、1人、2人と社会復帰を果たす人が現れた。

「ヴァンフォーレを、みんなにとっての居場所にしたい」そんな思いが、井尻さんに募り始めた。

人の「あたたかさ」を知ってほしいから

井尻さんが生まれたのは、1974年の第二次ベビーブームの最中。入学した早稲田大学ではスポーツ新聞部に所属し、取材に奔走した。卒業後も、こうした仕事に就くものだと思っていた。しかし、井尻さんを就職氷河期の波が飲み込んだ。

「友人の中でも、男性はテレビ局や出版社等のみんなが憧れる企業にどんどん就職を決めているのに、女性は、なかなかうまくいかなくて」

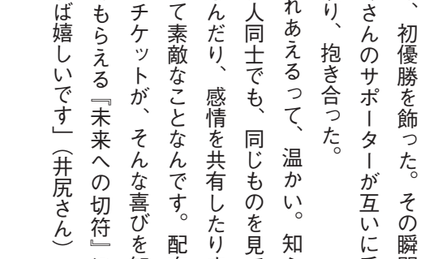
なんとか掴んだのは、出版社の契約社員だった。その後も、編集プロダクション、広告代理店と渡り歩いたが、期限付きの雇用だった。

そんな井尻さんを正社員で受け入れてくれたのは、ヴァンフォーレだった。

「いつか、恩返しがしたいと思っていました」

広報、営業とキャリアを重ねる傍ら、白鳥さんをはじめ、心の拠り所を探している人を支援した。

そんな井尻さんが新たな契機に遭遇する。「やまなし女性Miraiクエスト」だ。プロジェクトの進め方を学べ、プレゼンを通過すれば、資金面のバックアップもあるという魅力もあった。募集を見た瞬間に「不登校問題の解決につながる提案をしよう」と参加することを決めた。



ヴァンフォーレのマスコットをあしらった水引。通信制高校で手芸の講師を務める白鳥さんが制作した（画像は白鳥さん提供）

「不登校の解消はもちろん、自分に自信をつけるためにも、この企画を通したい！そう思って挑みました」

事業企画には「外に出るきっかけになれば」と、不登校の子たちにヴァンフォーレの試合を観戦できるチケットの配布を盛り込んだ。プロジェクトには、白鳥さんも協力してくれることになった。

終業後も、休みの日も、頭の中は常にプレゼンのことでいっぱいの日が続いた。後日「合格」通知を受けた瞬間は、思わず胸が熱くなった。

2022年10月16日、第102回天皇杯で、J2のヴァンフォーレがJ1のサンフレッチェ広島を破り、初優勝を飾った。その瞬間、たくさんのサポーターが互いに手を取り、抱き合った。

「ふれあえるって、温かい。知らない人同士でも、同じものを見て、楽しんだり、感情を共有したりするって素敵なことなんです。配布するチケットが、そんな喜びを知ってもらえる『未来への切符』になれば嬉しいです」（井尻さん）

今号の特集から

空にドローン 元気な小菅村の子

小菅村立小菅小学校の１、２年生児童８人。空にドローンが飛ぶことが日常の風景となった村で、すくすくと育ちます。小学校の体育館でドローンの飛ばし方や仕組みなどの説明を受け、興味津々の様子でした。説明役はNEXT DELIVERY運航部パイロットの澤井康起さん。みんなでドローンを囲んで記念撮影しました。

やまなしの魅力は もっともっとあるはず！

「ふれあいスクエア」では、県民の皆さんからの写真を募集しています。県の取り組みについてのご質問もお待ちしています。

新春特別企画として、次号に写真掲載された方の中から抽選で５名の方にQUOカード500円分が当たります。

応募締め切りは1月31日（金）まで。
当選者には山梨県公式LINEから個別に連絡します。

こちらからどうぞ！

山梨県公式LINEアカウント

友だち登録すると
写真を投稿できます。

カメラ ニック

やみつきに

甲府市善光寺の「手打ちうどんとだ」。吉田うどん特有の硬い麺。そして、やみつきになるスープ。ごちそうさまでした。

スーパー林道サイクリング

サイクルアドベンチャーツアー in 南アルプスへ。このイベントのために１日だけ開放される南アルプススーパー林道を自転車で駆け抜ける！

カメラ チャリ僧

モモもブドウも、イチゴもね！

山梨市のイチゴ園で気に入った実を摘んでその場で食べる。甘〜い！

カメラ ブルーマリン

カメラ 都留市産業課

温泉街のイルミネーション

石和温泉「さくら温泉通り」の冬は幻想的なイルミネーションに彩られます。ウッドデッキの遊歩道をゆっくり散策。

カメラ やまなっしー

ビュースポット

絶景！都留市の秀峰九鬼山から見渡す「富士山」「リニア」「高速道路」のトリプル・コラボレーション！！

FUREAI SQUARE ふれあいスクエア

PHOTO SPACE

あなたが撮った写真を
「ふれあい」に掲載しませんか？
皆さんのとっておきの1枚、
お待ちしています！

カメラ 新婚M

恐竜レース

11月開催の甲州富士川まつり。幼獣から成獣までのティラノサウルスがいっぱい。見応えのある激しいレースでした！

Q&A SPACE

皆さんから寄せられた県政に関する疑問・質問にお答えするこのコーナー。
今号の質問は、こちらです。

Q 空き古民家のマッチング始めたって聞きました。詳しく教えてください！

やまなし空き古民家・レトロ建築バンクについて説明します。

お答えします
建築住宅課 住宅対策室 技師
牛奥 理子

Q どんなサービスですか？

山梨県は、５年ごとの全国調査で全国一位の空き家率が続いた時期もあり、空き家を有効活用する策を検討していました。そこで、以前から要望があった「古民家を使いたい」という声と古民家所有者をつなぐサービスを２０２３年９月にスタートさせました。

使用可能な空き家は県の審査後、専用ホームページに掲載します。移住や新しい事業のために使いたい県内外の方から物件についての問い合わせがあれば、県がマッチングします。申請から登録まで費用は一切かかりません。

バンクでマッチングされた古民家

Q レトロ建築に特化しているのですか？

使用可能な空き家を登録する際に、「築50年以上」「伝統的な方法で建てられている」といった一定の要件を満たすことを条件にしています。こうした要件付きで空き家を県が一元化して提供する試みは、他県に例のない特色です。

Q 誰でも使うことができますか？

物件の所在地は県内に限りますが、利用者は県内外を問いません。これまでの掲載数は10件で、すでに3件の契約が済んでいます。掲載件数をさらに増やし、空き古民家の活用に結び付けていきたいと考えています。

県には昭和レトロや大正ロマン、明治ハイカラを感じさせる建物が点在しています。

そういった古民家を探している方、空き家をお持ちの方はぜひお問い合わせください。

古民家の内観は昔懐かしい雰囲気が漂う

[問い合わせ先] 住宅対策室
TEL 055-223-1731 FAX 055-223-1736

山梨 空き古民家 検索

イラスト：宮野耕治

01 デジタル
次世代育成と企業支援の担い手 学生DXリーダー誕生

本県のデジタルトランスフォーメーション（DX）を強力に推進する若手人材が新たに誕生しました。

県は2024年9月から10月にかけて県内大学生を対象に実践型のDX研修を実施。第1期生として20名の大学生に中高生を指導するスキルや中小企業を支援するスキルを習得してもらいました。最終日には研修の集大成として仮想のレストランを事例に、売り上げデータや来店者の消費傾向を分析した上でお店のホームページを制作しました。グループごとにプレゼンをし、意見交換も行われました。

今後はこの20名の大学生にDXリーダーとして、中高生へのDX指導や中小企業のデジタル課題解決を担ってもらいます。

DXを推進することで企業の業務が効率化し、生産性の向上につながることが期待されている一方で、全国的にDXを導入するための人材が不足しています。

県はDXリーダーが次の世代の中高生を育て、技術を学んだ生徒たちが大学でさらに磨きをかけ、次の世代を育てるという人材育成の循環サイクル構築を目指しています。DX人材を安定的に育成し、中小企業への支援を通じて県内事業者の成長を後押ししていきます。

グループワークに参加する大学生

詳しくはこちら▶▶

02 人口減対策
人口減少危機突破へ 調査研究プロジェクト 中間報告会開催

県は2024年10月28日、少子化対策に関する調査研究プロジェクトの中間報告会を開催しました。このプロジェクトは、山崎史郎内閣官房参与を代表とする人口減少対策の専門家グループと共に取り組んでいるものです。

将来の妊娠・出産に備えて健康管理を行うプレコンセプションケア（プレコン）への理解を深めてもらうため、身体の状態を調べるプレコン健診を職場健診とあわせて受けられるようにしたことや、プレコンセミナーを社員研修に位置付けた企業では、男女とも多くの方が参加されたことから、プレコンのさらなる推進には企業の協力が不可欠であることを発表しました。

さらに、世帯収入の増加や企業の子育て支援制度等の充実度が出生数の増加につながるという調査結果から、企業に対して賃金アップや支援制度の導入を働きかけていく必要があるとの報告がありました。

山崎内閣官房参与は「知事のリーダーシップの下、大変素晴らしい成果が出ている。引き続き頑張ってほしい」と激励しました。

県は、人口減少危機を突破するため、今後も積極的に取り組んでいきます。

参加者と意見交換する長崎知事＝県庁で

中間報告を評価する山崎内閣官房参与

03 森の恵み
国産黒トリュフ 県内初人工栽培成功

人工栽培された黒トリュフ

県森林総合研究所は2024年9月、18年から取り組んできた黒トリュフの人工栽培を県内で初めて成功させました。

トリュフはマツタケと同じように生きた樹木の根と共生する菌の仲間で、菌床による栽培ができず、人工的に栽培することが非常に難しいキノコです。国産黒トリュフの人工的な発生に成功したのは岐阜県に次ぐ全国2例目となります。

今後は、黒トリュフの人工的な栽培方法を確立させるため、トリュフの菌を効果的に感染させる方法や栽培に適する条件の探索など、安定的な発生に向けた研究を進めていきます。

訪問購入など 突然訪問してきた 業者に注意

「売るつもりのない貴金属まで強引に買い取られてしまった」「ふと、目を離した隙に大切な貴金属が持ち去られてしまった」などの相談や、訪問購入業者を名乗り、無理やり家に入ろうとする不審者の情報が相次いでいます。

購入業者の飛び込み勧誘は、法律で禁止されています。また、訪問をきっかけに住民から聞き取った情報が犯罪に使用される恐れもあります。

- 突然訪問してきた業者は決して家に入れない。
- 業者からの電話や訪問してきた場合には、個人情報を教えない。
- 自宅の施錠や防犯設備の見直しをする。

身の危険を感じた場合や犯罪被害にあった場合は、直ちに110番！

困ったら下記にご相談ください。

山梨県県民生活センター
☎ 055-235-8455

消費者ホットライン
☎ 188（いやや）※全国共通
（最寄りの市町村や県の消費生活相談窓口をご案内します）

警察相談専用電話
☎ #9110 ※全国共通

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。

FUREAI［ふれあい］
役にたつ山梨県の広報誌
2025 | WINTER
Vol.83
令和7年1月1日(季刊) 山梨県広聴広報グループ 発行
〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1
TEL 055-223-1338 FAX 055-223-1525

あけぼの大豆
しっとり焼き大豆と極上枝豆スープのセット

商品提供：あけぼの農園株式会社

読者プレゼント

抽選で5名

アンケートに答えて応募しよう!

次の❶～❺とアンケートにご回答ください。
応募は「はがき」または「応募フォーム」でお願いします。
❶郵便番号 ❷住所 ❸氏名 ❹年齢 ❺電話番号
※応募は１人１回限り。

アンケート

問1：今号の中で最も関心を持った内容とその理由は?
問2：あなたが山梨で新たに挑戦したいことは何ですか？
※いただいたご意見の一部を紹介させていただくことがあります。

応募先

山梨県広聴広報グループ
「ふれあい読者プレゼント」係
〒400-8501 甲府市丸の内 1-6-1

応募フォームはこちら
https://forms.office.com/r/7FyCeM7LcM

締め切り 1月31日(金) 当日消印有効

商品の発送をもって、当選発表に代えさせていただきます。
個人情報は商品の発送のほか、県からのお知らせなどのために、使用させていただくことがあります。

「おいしい未来へ やまなし」については、県ホームページをご覧ください。

おいしい未来へ やまなし 検索

ふれあいは英語と中国語でも読めます。

FUREAI is also available in English and Chinese.

FUREAI 还有英文和中文版。

県政情報発信中

- 山梨コネクト ヤングケアラー
- 山梨県が良すぎる
- やまなし in depth
- HIGH QUALITY YAMANASHI ハイクオリティやまなし
- 山梨県公式LINE

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。

やまなしの県有林は、森林管理認証を取得し、世界的な基準で豊かな森づくりを行っています。
FSC ミックス 紙 | 責任ある森林管理を支えています FSC® C023103
やまなし森の印刷紙
この印刷紙には、山梨の森林認証材も利用活用されていますので、森林環境保護・水質保全等の支援に役立てられます。